【第 1 部基調講演資料】

『障害者差別解消法』をわたしたちのものに

加藤　博史(龍谷大学)

1. はじめに

(1) 谷口明広先生の願い　権利主体

(2) 障碍のある人もない人も、みんなが、なりたい自分を描き、生き方をデザインでき、自分のステキさを表現でき、個性を発揮し、ヒューマンな社会創りに協働・参画ができること。

2. 差別解消法とは

(1) 障碍は、「環境」と「周囲の眼」、にある。

(2)「心身のはたらきとかたち」は、人それぞれ、いろいろあってよい。いろいろあるからこそよい。

(3)ニーズとは何だろう。

①欲求とニーズの違い　　生活の質を高めましょう

②あきらめを願いに、願いをニーズに

(4)セーフティネットと社会保障の違い。

(5) 差別的取り扱いとは

①医療、福祉サービスの提供を拒み、制限し、条件をつけること

②障害のある人の意思に反して施設に入れること

③十分な教育を受けられるようにするために必要な指導や支援をしないこと

④家族の意見を尊重せずに、特別支援学校に通わせること

(6)「リーズナブルな配慮(アコモデーション)」をしないことも差別である。

①リーズナブルとは、a.「均衡を失した重荷」が社会や企業にない。b. かつ、「不当な重荷」が社会や企業にないこと。

②配慮すべきことが、配慮できない時「なるほど仕方ありませんね」と説明・立証できない時は「差別」である。

③「アコモデーション」とは、「配慮」と訳すよりも「必要な調整」、と訳すべき意味。

(7) 経過

①2006 年 12 月、国連で障害者権利条約採択

②2007 年 9 月、条約に日本署名

③2011 年 8 月、障害者基本法改正、合理的配慮が加筆

④2013 年 6 月、障害者差別解消法成立

⑤2014 年 1 月、障害者権利条約批准

⑥2015 年 3 月、障害者雇用促進法に基づき、「障害者差別禁止指針」、「合理的配慮指針」

募集、採用、賃金、配置、昇進、降格等で差別はダメ。知識の普及を。

⑦2016 年 4 月、障害者差別解消法　施行

繰り返し注意をされても、合理的配慮を怠り改善しないと 20 万円以下の過料

(8) しかし現実は、

①たとえば、生活保護世帯のうち、29.2%が障害のある人の世帯、(高齢者世帯 44.4%、母子世帯 7.1%) なお、ひとり世帯が中心で 76%を占める。

②障害者と認められている(福祉サービスの対象となっている)人の国際比較

※1　20~64 歳人口に占める障碍者の割合

スウェーデン、20.5%

イギリス、　　18.2%

ドイツ、　　18.0%

フランス、　　16.0%

オーストラリア 12.5%

アメリカ、　　10.5%

日本、　　4.4%(知的 0.3,　身体 1.6,　精神 2.5)

※2　障害のある学生の割合

アメリカ　　10.0%

日本　　0.3%

※3　在宅身体障害児者の推移

1980 年　197 万 7 千人　(65 歳未満 115 万人)

2011 年　386 万人　　(65 歳未満 111 万人)

大変な増え方だが、そのほとんどは高齢者である。

若い人たちは、むしろ減っている。

③身体障害者の内訳は、肢体不自由 166 万人、視覚 31 万人、

聴覚 31 万人、内部 92 万人。

④在宅の知的障害者数

1995 年　29 万 7 千人　(65 歳以上　7 千人)

2011 年　62 万 2 千人　(65 歳以上　5 万 8 千人)

2 倍以上という増え方である。手帳申請がしやすくなったのだろうか。

長命な人が増えている実感はある。

⑤知的障害で施設入所の人　13 万 2816 人 この数字は

国際的に見て高いもの。

⑥精神障害者　30 万人の入院のうち三分の一が福祉施設代わりの入院。

日本では、障害者と認められている人たちが、いかに少ないか

施設は否定してはいけないが、入所施設に長期に入っている人がいかに多いか。

(9) 国の経済力に応じたお金が、障害者のために投じられているか

①積極的労働市場政策(対 GDP 比)　国立社会保障・人口問題研究所

デンマーク、　1.58

スウェーデン、1.29

フランス、　0.89

ドイツ、　0.88

日本、　　0.25

②障害、業務災害、傷病のための現金と現物給付割合(GDP 比)

スウェーデン、　5.5%

イギリス、スペインも 2%を超えている。

日本は、OECD 加盟国 30 のうち 27 番目で 0.7%(現金 0.6%,

現物 0.1%、現物とは、ヘルパーサービス等)。

日本より低いのは、韓国、トルコ、メキシコの 3 カ国。

(10) 大事なことは

①マニュアルを覚えて実行することではない。

この点で、ハラスメント問題と重なるところがある。

②当事者本人から異議申し立て(権利主張)言いやすくすること。

③当事者本人から異議申し立てを受けとめやすくすること。

④コミュニケーションを活発にして、自己の態度の改善に不断に努めること。

⑤差別解消法は、スロープをつけることや言葉遣いに注意することだけではなく、共に生きる文化を創っていくための第一歩です。

⑥まず、知ること。そして、同じ目線で付き合うこと。

そのためには発信力とコラボ（協働）が大事。

3. 仕事を考える

(1) 自尊心を高めることが目的

(2) OJT(働きながらのトレーニング)の充実を

(3) 企業で知的障害のある人ができる「仕事を切り出す」。

企業と福祉にギャップがありすぎる。

「仕事創出チーム」を企業の現場責任者と合同で設けていく。

(4) タイムリーにそのつど愚痴をこぼせる、専門相談につなげられる自助グループを確保したいものです。

(5) スウェーデンではペットを預かる仕事を、知的障害のある人たちが経営しています。

(6) ベッドサイドで、死にゆく人の「足をマッサージし、さする仕事」が滋賀県で取り組まれており、大変喜ばれています。

4. 余暇を考える

(1) 生涯学習の充実を。

(2) 遊ぶ能力を発揮できるようにしよう。①ダンス、②音楽、③演劇…などを、障害を持たない人と交ざりあって。

(3) 東京など遠方の育成会とタイアップして、1 日ホームスティ運動をやれないでしょうか。

5. 親なき後を考える

(1) 成年後見制度の活用。

(2) 経済的安定の確保　年金と生活保護。

(3) サービス活用によるひとり暮らしやグループホーム活用。

(4) ボランティアによる寄り添い人(コンタクト・パーソン)活動。

デンマークでは准公務員。宇治では月に一度のデートを続けているボランティアグループがある。

参考 1.　以下は、知的障害者の生涯学習の資料です。

ともいき大学(だいがく)

障害者権利条約(しょうがいしゃけんりじょうやく)をわたしたちが使(つか)えるものにしましょう

20141004　加藤(かとう)　博史(ひろし)

1. 障害者権利条約(しょうがいしゃけんりじょうやく)とは

(1) ことし 2014 年、1月(がつ)20日(か)、日本(にほん)の国(くに)は、障害者権利条約(しょうがいしゃけんりじょうやく)

にはいりました。

(2) 障害者権利条約は、6年間話しあって、

2006 年 12 月 13 日に国連できまりました。

(3) 2008 年 4 月 3 日に、20 の国がはいったので、効力がでました。はいった国はまもらなければならなくなりました。

(4) それから、100 いじょうの国がはいりました。日本は、139番目にはいりました。

2. どんなことが、かいてありますか

(1) 「みんなちがって、みんないい」、「ちがいを、たいせつにしましょう」(前文9、第 3 条)=多様性の尊重といいます。

(2) しょうがいしゃは、「みんなちがってみんないい」をたいせつにする社会づくりに、やくだってきました。(前文 13)

(3) 「わたしらしさ」をたいせつに。(第 17 条)

(4) どこで、だれと暮らすかは、えらべます。地域で交流して暮らせるように支えます。(第 19 条)

(5) 手話はたいせつなことばです。すすめていきます。(第21条)

(6) 結婚する権利、こどもを産む権利。これらを責任をもってきめる権利。(第23条)

3. 障害者権利条約にはいるためにつくった法律

(1) 障害者基本法の改正　2011年8月、スタート

①基本的人権、②「ひとりの人」として人格と個性をたいせつにする、③ともにいきる社会、④どこで、だれと暮らすか選べる、⑤社会、経済、文化活動に参加、⑥意思疎通(きもちや考えをつたえあう)のサポートをすすめる、⑦一生、つながったサポート、⑧差別のカベをなくす。

(2) 障害者総合支援法　2013年4月、スタート

(3) 障害者差別解消法　2016年4月、スタート

4. だいじなこと

(1) いろんな人が、まざりあってくらせることが、だいじです。

(2) 自分のことを、じぶんできめられることが、だいじです。

(3) 目標や希望があることが、だいじです。

(4) こころから「ほっ」とできる、信頼の人間関係が、だいじです。

5. チェックすること

(1) しょうがいのある人もない人も、いっしょにつかえる(ユニバーサル)建物や設備になっていますか。

(2) 労働する権利、教育をうける権利、健康でいる権利、文化的生活をする権利、はまもられていますか。

参考 2

「障害者差別解消法」をまなびましょう

かとう　ひろし

1. 「障害者差別解消法」がつくられました。

ことし 2013 年の、6 がつ 26 にち、のことです。

でも、スタートするのは、三年後、平成28年の 4月1日です。

2. めざすこと　障害があることで差別してはいけない

(1) 障害のない人とおなじ人権

(2) 個人として尊厳

(3) みんなたすけあっていきていく社会　共生社会

3. 行政(やくしょ)には義務(かならず、やりなさい)

会社の社長さんは努力(できるだけ、がんばりなさい)

4. 会社の差別をなくすために、お金がいって、かいしゃが、つぶれてしまう、ということがない範囲で、合理的配慮をしなさい。

合理的というのは、ちゃんと理由がいえる、ということです。

障害者権利条約には、ぜんたいのバランスがとれないお金がかかるとき、や　不当(正しくない)な重荷(おもい荷物)になること、ならば、理由をいって、「障害のある人たち、ごめんなさい、ゆるしてくださいね」とゆるしてもらってもいいです、とかいてあります。

配慮というのは、えいごで、便利にすること、といういみです。

たとえば、奈良県で、くるまいすの幼稚園児が、きんじょの、しょうがっこうにいれてください、とたのんだのに、「小学校は階段があるからだめです」とことわられたことがありました。

これは、エレベーターをつければよいことです。そして、ものすご

いお金がかかるということではありません。これから、こんなことをすると、「さべつ」といって、禁止されます。

5. 大臣が、あなたのかいしゃではどうなっていますか、とききます。しらんかおしていると、20万円とられます。うそをついても、とられます。さべつをなくしなさい、と、すすめることをします。

6. 「じぶんでじぶんの生き方をきめていく」ために

(1) 「なかま」をもつこと。

(2) じぶんに、「ほこり」をもつこと。

じぶんの「かお」、「からだ」、「さいのう」に「ほこり」をもつのではなく、「いきていることそのもの」に感謝し、ほこりをもつ。

※「しょうがいがなくてよかった」ではなく、しょうがいをふくめて、「いまの、わたしで、よかった」

(3) いろんな人たちとの出会いをドシドシつくっていくこと。